

# 第4学年 学級活動指導案

日時：平成26年10月24日（木）第5校時  
場所：4年教室（2階）  
授業者：林 和也  
児童数：男15名、女20名

## 1 単元名「メールなしでは生きていけない」

### 2 指導の立場

#### （1）子どもの実態

学級の子どもは、昨年度の全校朝会などで行われてきた情報モラル教育を受けており、知識的な水準はまずまず高いといえる。しかし、SNSなどを使用してコミュニケーションをとるようになるのはまだ先のことで、実感を伴った知識ではない。

また、メールや SNS を使用してのコミュニケーションではなく、会話でのコミュニケーションでも言葉遣いや態度が荒い場合があり、この授業を通して自身のコミュニケーションについても振り返らせたい。

#### （2）本時の指導について

スマートフォンや SNS 等を使い、いつでも気軽にやりとりを楽しんでいる子どもの姿が多く見られるようになった。休日に遊ぶ相手を探したりする際には、大変便利な道具である。しかし、発信したメールやメッセージは、必ず相手に届いているとは限らず、サービスが停止されていたり、相手が着信に気付かなかったりすることもある。また、相手がメールやメッセージを読んでいても、返信できない状況にいる場合もある。このような状況を考えず、「いつでもつながる」という意識でいると、返信がすぐに来ないことでイライラしてしまい、そのことが原因でトラブルが起こることがある。また、文部科学省より、家庭の教育力や地域の機能低下、携帯電話の普及等によって、人間同士の関わり合いやコミュニケーション能力の不足を生じさせていることや、対人関係のコミュニケーションが苦手と不得意な児童が、その不安な気持ちを埋める場所として、ネットワーク上のコミュニケーションに傾倒している場合があると述べている。ネットでの返信の速さや量が、友達との関係の深さをはかるものと思込み、コミュニケーションに疲れを感じている子どもや、インターネット上に自分や友人の写真などを送

信して起こるトラブルも増加している。そこで、本題材では、インターネットの特性を理解させるとともに、相手の立場や気持ちを思いやる心と情報発信について気を付けなければならないことについて考えさせたい。

### 3 研究主題に関わって

#### （1）伝え合うための指導方法・指導形態の工夫

本時の授業の後半には、SNSでトラブルを起さないためにはどうしたらよいかをグループ交流する時間が設定した。そこでは「交流ボード」を活用する。「交流ボード」は、各班に配布する小型のホワイトボードのことで、班員同士で出し合った意見を書き込みながらまとめていくものである。これにより班内交流では、「誰が」「どのようなこと」を言ったのかを確認しながら記録できる。また、その後の全体交流においても、「自分たちのグループではこういう意見が出ている」というように、視覚に訴えながら、明確な発表ができるようになると思った。

### 4 ICT機器の活用について

#### （1）使用する主なICT機器

- ・ノートPC
- ・電子黒板
- ・情報モラル教育教材

#### （2）ICT機器を活用する意図と配慮

- ① メール依存をしている子どもの話の提示動画を視聴することによって、メール依存の問題を視覚的に捉えることができるようにする。

また、今後メールでのコミュニケーションの方法をどのようにしていくとよいか考える過程で、解説動画を見せることによって、一人一人がメールに依存しないで、心身共に健康的な生活を送るためにはどうするとよいか考え、自己目標を立てることができるようにする。

## 5 事前アンケート内容

- Q1 家にインターネットに接続できて、あなたが使えるパソコンがありますか？
- Q2 あなたは、自分の携帯電話を持っていますか？
- Q3 あなたは自分の家では自分が使う携帯電話の利用の仕方は決められていますか？
- Q4 遊ぶ約束をしたのに、うまく伝わらなかった経験はありますか？
- Q5 Q4で「はい」答えた人に質問です。どのような方法で約束しましたか。（複数回答）

## 6 本時の目標

メールやSNS 使用時はマナーがあることを理解し、コミュニケーションの方法をメールだけに頼らないようにする必要があることがわかる。

## 7 本時の展開

深めの発問

評価規準

※ICT 活用について

過程	主な学習活動	指導・援助
つかむ	1 事前アンケートの結果を示す。 2 友達に連絡したのに、伝わらなかった経験について発表する。 ・遊ぶ約束をするために電話をしたのに家にいなかった。 ・伝えたのだけれど、伝わっていなかった。 3 課題 メールをするときには、どんなことに気をつけたらよいのだろう。	・事前アンケート結果ではメールやSNSの利用率は低いですが、今後利用率が飛躍的に伸びることが予想できるため、本時の学習が必要であると話す。
深める	4 動画を視聴してメールを利用するときの問題点を考える。 (1) 主人公について思ったことやメールをやめることができなかったわけをグループで話し合う。 全体交流 ○問題点を考える。 ・みさきさんは、友だちに、何度もメールを送ったり、3分以内に返信するように要求したりしている。 ・お母さんが食事中までケータイを手放さないことを注意するが、みさきさんは、すぐに返信するためだと聞き入れない。 ・過去のメールを読み返しているうちに夜中になってしまう。 ・みさきさんは、自分をコントロールできていない。 (2) トラブル時の主人公の気持ち ・つらい、どうしてみんな返事を返してくれないの。 (3) 主人公以外の人の気持ち ・何度もメールの返信を要求されて嫌だ。 ・自分の時間も大事にしたいよ。	※提示動画を視聴する。 ・メールでは、相手の忙しさなど、今現在の状況は分からないことを確認する。 ・返信したくても、できないことがあることを確認する。 返信したくてもできない人が、夜中まで、いっぱいメールを送られたらどんな気持ち?
まとめる	5 SNSでトラブルを起こさないようにするためには、具体的にどのようにしたらよいのかを考える。 (1) 解説動画を見る。 ・受け手の状況により、返信できないこともある。 ・返信の速さや量が友人関係の深さではない。 ・過度のコミュニケーションはお互いに疲れる。 ・送る前に、送ってよいのかを考えなければならない。 (2) ワークシートに書き込む。 (3) 発表する。 ・何度もメールを送ったり、3分以内に返信するように要求したりすると、友達にも迷惑をかけてしまう。友達のことでも考えることも大切。 ・メール依存症になると、返事が気になって夜寝るのが遅くなって、朝起きられなくなってしまう。勉強にも集中できないし、学校を休むようになることもある。だから、これからは時間の約束をきちんと守りたい。守れない時は、親にゲーム機を預かってもらうようにしたい。 ・友だちの家でゲームをする時は、友だちの家と自分の家の約束を伝え合い、長い時間しないようにしたい。 6 まとめを書く。 メールを使ってコミュニケーションをとるときには、言葉づかいや送信する時間を確認し、自分のことだけでなく、相手のことも考えて使わなければならない。	※解説動画を視聴する。 SNSを使う際の注意点や、トラブルにならないようにするにはどうすればよいのか、考えをもつことができている。